

# はじめての 多言語読み聞かせ ハンドブック

～外国につながる子どもたちと絵本を楽しみましょう～



公益財団法人 三重県国際交流財団 (MIEF)



このハンドブックは、共同募金会配分金を活用して作成しました。

---

## はじめに

三重県における外国人住民数は、62,000人を超え、過去最高を更新しました(三重県「外国人住民国籍・地域別人口調査」令和5年12月31日現在)。

一方、外国につながる子どもたちについては、県内公立小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校における日本語指導の必要な児童生徒数は2,657人であり、公立小学校、中学校、義務教育学校における在籍率は全国2番目の高い水準となっています(文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入れ状況等に関する調査」令和3年5月1日基準日)。

MIEFでは、外国につながる子どもたちが、母語と日本語両方を大切にしながら成長できるよう、平成26年度より多言語による読み聞かせ事業を行っています。

本ハンドブックでは、これまでの経験を元に、県内における多言語読み聞かせ活動を広めるため、この活動の大切さを伝えるとともに、具体的な活動案や注意点、活用できる教材等を紹介しています。

県内で絵本の読み聞かせ活動に携わる皆様や、外国につながる子どもたちに関わる皆様等、ぜひ様々な立場の方にこのハンドブックを手にとっていただき、多言語読み聞かせ活動普及のため、ご支援ご協力をいただけますようお願いいたします。

公益財団法人三重県国際交流財団(MIEF)

---



## もくじ

- 1 多言語読み聞かせ活動とは ..... 1
- 2 多言語読み聞かせ活動を始めよう! ..... 3
- 3 活動事例 ..... 7
- 4 多言語読み聞かせ活動と著作権について ..... 14
- 5 多言語読み聞かせ活動に使える 絵本や教材のリスト ..... 15

## 知っていただきたい「母語」のこと

次のページには、多言語読み聞かせ活動で育む日本語と母語について、記載しています。



一般的に母語とは、「子どもが会うはじめての言語」だと言われてい  
ます。しかしながら、外国につながる子どもが多様化する現在では、家庭内  
の言語が1つとは限りません。

このため、「子どもが会うはじめての言語」が、家庭内の共通言語であ  
るとも限りません。

例えば、日本在住で父親がポルトガル語話者、母親がスペイン語話者で  
ある場合、家庭内で話す言語はいずれかの言語か、両方の言語、もしくは  
日本語となる可能性があります。

また、家庭内で使用され、子どもが初めて出会う言葉がフィリピン語で  
あっても、日本で生まれ育ち、日本の教育を受ける中で、日常的に使用す  
る言語は、日本語が中心となる場合もあります。

このような多言語・多文化環境で育つ子どもたちが、私たちの周りでも  
増えています。このため、母語を一言で定義することは、難しい状況です。

そこで本ハンドブックでは、母語を「子どもの思考を支える上で最も強  
い言葉」として位置づけることといたしました。

# 1 多言語読み聞かせ活動とは

近年、両親またはどちらかの親が日本以外の国から来た「外国につながる子どもたち」が増えています。そのような子どもたちに対する教育の一つとして、「多言語読み聞かせ活動」があります。

## 多言語読み聞かせ活動とは？

「外国につながる子どもたち」を取り巻く様々な言語を用いた読み聞かせ活動です。

特に本ハンドブックでは、「日本語」と「子どもたちの母語」を中心とした活動について取り上げています。



## なぜ母語？

多言語読み聞かせ活動では、子どもたちに、母語も日本語も大切にしてほしいと考えています。

その理由としては、次の4つがあげられます。

- ①子どもたちの母語は、子どもたちのアイデンティティの形成にとっても重要です。子どもたちには、自分のルーツに誇りを持てるようになってもらいたいと考えています。
- ②母語は家族とのコミュニケーションにも必要です。日本語の習得が十分ではない親や親戚との関係においては、母語が重要な役割を果たします。
- ③複数の言語ができるようになると、視野が広がります。柔軟な思考力が身についたり、コミュニケーション能力が高まったりすると言われています。
- ④母語の力がつくと、その力を日本語力に生かすこともできます。母語の力を育てることは、日本語習得の近道でもあります。

# なぜ読み聞かせ？

読み聞かせは主に次の3つを理由に、子どもたちにとって大切だと考えています。

## ①心を豊かにする

子どもは読み聞かせを通して、絵本の世界に入ることができます。読み聞かせの間子どもは、声や音に耳を傾け、絵や文字を目で追うことで、たくさんの情報に触れられます。

絵本には、子どもの好奇心をかき立てるようなおはなしがたくさんあります。子どもは読み聞かせを通し、絵本の世界を自由にイメージしたり、登場人物の感情に寄り添ったりします。絵本の読み聞かせは、子どもの想像力や共感力を高め、心を豊かに育てることができます。

## ②ことばの力の土台を作る

絵本には、子どもが初めて出会う言葉がたくさんあります。読み聞かせを通し、新しい言葉を何度も耳にすることで、語彙力を育てることができます。また、くり返し読み聞かせてもらうことで、文章を理解する力も身につきます。絵本の読み聞かせは、ことばの力の土台を作ることができます。

## ③読む力を養う

読み聞かせは読む力の育成につながり、幼少期から行うことで、スムーズな就学へと橋渡しをすることができます。また、母語を含めた多言語で行うことで、より豊かに生きていく力を育むことができます。

しかし、保護者が子どもの読み聞かせに積極的に関われないこともあります。また保護者の母国では、家庭で読み聞かせをするという文化や習慣が、日本とは異なる場合もあります。そこで、保護者だけではなく、社会の一員として私たち支援者が間に入り「多言語読み聞かせ活動」を行うことで、子どもたちに、母語と日本語を身につけるチャンスを与えることができます。保護者が読み聞かせ活動に参加をするきっかけにもなります。

外国につながる子どもたちが心豊かに生きていけるように、読み聞かせを通して、母語と日本語、両方の力を育てることを目指しましょう。



## 2 多言語読み聞かせ活動を始めよう!

多言語読み聞かせ活動について知っていただくため、まずは右記の二次元コードより動画をご覧ください。

紙芝居であれば、例えば、1つの場面(1枚)を日本語と外国語(動画ではポルトガル語)で読みます。同じ場面を多言語で読むことで、日本語と外国語両方の言葉と意味を知ることができます。



次からは、具体的な活動案の例を紹介します。ここでは、活動案をもとに、どのような準備が必要か説明します。なお、青字は記入例です。

### 活動案の作り方





#### A 準備

(1) 参加者	<p>例) ブラジル人学校の保育園児○人、小学1年生○人、保護者○人 計○○人</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●子どもたちの人数(年齢、学年)に加えて、保護者や教員・その他の支援者などが参加するかどうかを確認します。</li></ul>
(2) 使用言語	<p>例) ポルトガル語と日本語</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●日本語とその他の言語がそれぞれどのくらいできるのか、どの言語が得意なのか、可能な限り情報を集めておくようにします。</li></ul>
(3) 場所	<p>例) ○○○学校○○教室、○○センター</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●活動内容に対して、十分な広さがあるか、机やいすはあるか(使用するかどうか)、インターネット環境があるか(必要か)、などを確認します。</li></ul>
(4) 日時	<p>例) 20xx年○月△日(◇曜日) □時~□時</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●準備や終了後の片付け、必要な場合は事前リハーサルの時間も含めて考えるようにします。</li></ul>
(5) スタッフ	<p>例) 日本語スタッフ: ○○○○さん、ポルトガル語スタッフ: ○○○○さん、○○学校の学生ボランティア…</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●外国語スタッフは、学校の教員や母語支援員のほか、子どもたちの保護者や上級生の児童生徒にお願いしてもよいでしょう。保護者が読むと、子どもたちもとても喜び、上級生にとっては良い学びの機会になります。</li></ul>
(6) 使うもの	<ul style="list-style-type: none"><li>●使用する絵本・紙芝居・音源などは著作権に留意して選びましょう。 ◎多言語読み聞かせ活動と著作権については ⇒p.14</li><li>●可能であれば、保護者や教員にアンケートをすると、今後の活動の参考になります。 ◎アンケート例は ⇒p.17</li><li>●活動に小道具や食べ物などを使う場合は、危険性や子どもたちのアレルギーなどについても確認しておきます。</li><li>●参加者名簿(名前、年齢、使用言語)を作成します。</li></ul>

p.7からの活動案では、上記(1)~(5)について、実際に書き込めるように空欄にしています。

## B 活動の流れ

活動の流れは、おおよそ次のステップで構成しています。ただし、順番はこの限りではありません。実際の活動では、「始まりのあいさつ」と「終わりのあいさつ」があります。

<p>① テーマの導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「擬音語・擬態語」「色の名前」「動物の名前」…など、その回で特に子どもたちに注目して欲しい点や、おはなしを理解しやすくするための言葉の紹介などをします。</li> </ul>	
<p>② 読み聞かせ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 読み聞かせ活動を行います。</li> </ul>	
<p>③ ふりかえり (内容確認)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもたちの年齢によっては、「おもしろかった?」「怖かった?」など感想を聞くだけでも良いです。</li> <li>● おはなしの内容に合わせてクイズを出したり、登場人物の気持ちやその後の展開について想像させたりします。</li> </ul>	
<p>④ 動く活動 (ダンス、歌、ゲーム、お絵描きなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ②と③は、じっくり聞いて頭を使うことが多いため、体を動かして楽しめる活動も取り入れます。</li> <li>● 時間があれば複数の活動を組み合わせても良いです。例えば、折り紙で作った帽子をかぶりながら踊ったり、短冊を書いて飾った笹を手に歌ったり、絵を描いたりすることができます。</li> <li>● 持ち帰ることができるものを作ると、帰宅後、子どもたちが家族とコミュニケーションをするきっかけにもなります。</li> </ul>	



## C 活動のポイント

### ●時間

- 言語数が増えると、読む時間が2倍、3倍になることに注意してください。
- 子どもの年齢や特性に合わせて、全体の時間と各活動の時間配分を考えます。小さい子どもの場合は、1つの活動が長くなり過ぎないようにします。



### ●おはなしを選ぶときに配慮すること

対象となる子どもたちの国で、一般的に口に出すことがタブーな物事や、宗教的なことについて触れるようなおはなしは避けた方が良いです。事前にその国の人に内容を確認してもらうと安心です。

例えば、「うんち」「おしり」「鬼」などの言葉を人前で話すことに、強い抵抗を感じる国の方もいます。また、特定の動物(例：牛、豚、犬、象など)をととても大切にしたり、反対に嫌ったりする宗教や国もあります。その動物が出てきても、おはなしを楽しめないことがあるので注意が必要です。

◎著作権については ⇒p.14

◎多言語読み聞かせ活動に使える絵本や教材のリストは ⇒p.15



### ●読み方

いろいろな方法がありますが、MIEFで活動する際には、以下のように読んでいます。

- 「①子どもたちの弱い言語(得意ではない言語)」から「②強い言語(得意な言語)」の順番で、1場面(紙芝居なら1枚、絵本であれば見開き2ページ)ずつ交互に読みます。例えば、第1場面を日本語で読んだら、次は同じ第1場面をもうひとつの言語で読み、それから第2場面を日本語で読んで…と進めます。その際、子どもが混乱しないように、読み手一人が複数の言語を使わないようにしましょう。日本語はAさん、ポルトガル語はBさんといったように、一人が使う言語は一言語に限定しましょう。

◎読み方については ⇒p.10「コラム」

- 子どもたちの言語能力を考慮して、無理のないスピードで読みます。日本語も、不自然になるほど文を区切って読んだり、一音ずつ延ばしたりせず、自然な日本語を心がけます。
- 日本語は主語が省略されることが多く、外国につながる子どもたちにとって分かりにくいことがあります。どの登場人物のセリフか分かるように、声色を変えたりして工夫すると良いです。



### ●使用する日本語について

日本語で説明や指示をする際は、できる限りシンプルな日本語で、話し過ぎないことがとても重要です。発言内容はすべて活動案に書いておくことをおすすめします。

言葉に頼らず、絵やジェスチャーでも伝わるように工夫します。

### ●通訳について

翻訳があるおはなしを使用し、上記の「使用する日本語について」に留意をすれば、必ずしもブローの通訳は必要ありません。読み聞かせの習慣や、言語教育について広く知ってもらうためにも、子どもの保護者や地域の外国人住民の方に「外国語スタッフ」としてご協力いただけるようお願いしてみましよう。



### ●3言語以上で実施する場合

子どもたちの年齢などにもよりますが、短い話であれば、前述の「読み方」と同様の手順で、3言語で行うことも可能です。

または、〈B 活動の流れ〉(p.4)のうち「②読み聞かせ」と「③ふりかえり(内容確認)」のみ、同じ言語同士のグループ活動で、「①テーマの導入」や「④動く活動」は全員で集まって行うこともできます。



# 3 活動案例

## 例 1


# だんだらぼっち (紙芝居／) 製作MIEF)



### この活動案の特徴


- 主に3歳以上～小学校2年生位までの子どもを対象に想定した活動です。
- 歌、手遊び、折り紙の活動もあり、小さい子どもでも飽きずに参加できます。
- 多言語(スペイン語、中国語、フィリピン語、ポルトガル語)の翻訳が付いた冊子があり、参考になる動画もあるので、準備がしやすいです。
- 三重県に古くから伝わる巨人のおはなしです。巨人のいたずらに悩まされていた村人たちが、力を合わせて巨人を追い払います。三重県志摩市では、この伝説にもとづく「わらじ祭り」が今も続いています。日本各地に同様の言い伝えがあり、地方によって「ダイダラボッチ」「でいだらぼっち」など様々な呼び方があります。その地域や日本の文化理解にもつながります。

## A 準備

(1) 参加者	
(2) 使用言語	
(3) 場所	
(4) 日時	
(5) スタッフ	
(6) 使うもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>●紙芝居『一多言語で楽しむ三重のおはなし—だんだらぼっち』と別冊の多言語翻訳 <a href="http://www.mief.or.jp/jp/mief_kyozai.html">http://www.mief.or.jp/jp/mief_kyozai.html</a> ★日本語およびポルトガル語は以下の動画も利用可能。 <a href="https://youtu.be/TvuejUEGCN0?si=jCZGJPiorB8bjsE5">https://youtu.be/TvuejUEGCN0?si=jCZGJPiorB8bjsE5</a>  YouTube</li> <li>●『しあわせならてをたたこう』(アメリカ民謡)の音源(動画またはオルガンなどで演奏する)。 ※多くの国で広く知られている。必要に応じて、日本語および他言語の歌詞をプリントで配布する。</li> <li>●人、ねずみ、象の絵カード(ペープサート) ※ここでは、足音が小さいものの例として「ねずみ」、(「だんだらぼっち」のように)足音が大きいものの例として「象」を使用しているが、他のものでも可。</li> <li>●折り紙(帽子制作)用の模造紙(参加者数分)とペン、テープ ★道具と作り方の詳細は上記の動画参照。</li> <li>●必要に応じて保護者等へのアンケート</li> </ul>
(7) その他注意することなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『しあわせならてをたたこう』の歌と振りを練習しておく。</li> <li>●折り紙(帽子)の折り方を練習しておく。完成見本を用意する。</li> </ul>

## B 活動の流れ

時間の目安	活 動	話すこと、すること(必要に応じて、通訳する)	補足・注意点
開始前	会場の準備		
0:00	① 始まりのあいさつ	<p>みなさんこんにちは! わたしは(名前)です。 今日は三重県に昔からある有名なおはなしを読みます。 日本語と〇〇語で読みます。 日本語は(名前)さんが読みます。 〇〇語は(名前)さんが読みます。</p>	
0:01	② 歌	<p>みなさん、初めに歌いましょう。 この曲を知っていますか?</p> <p>♪『しあわせならてをたたこう』 🕒 90秒×1～2回</p>	1言語あるいは複数言語で歌う。
0:04	③ 導入	<p>これは人です。 人が手をたたきます。 どんな音ですか? (子どもたちが答える) 子どもたち:「(例)ぱんぱん」</p> <p>人が足を鳴らします。 どんな音ですか? (子どもたちが答える) 子どもたち:「(例)とんとん」</p> <p>これは何ですか? (子どもたちが答える) 子どもたち:「(例)ねずみ」</p> <p>これは“ねずみ”です。 ねずみが手をたたきます。 どんな音ですか? (子どもたちが答える) 子どもたち:「(例)とんとん」</p> <p>ねずみが足をならします。 どんな音ですか? (子どもたちが答える) 子どもたち:「(例)ぱたぱた」</p> <p>※以下、象についても同様にやりとりをする。</p>	<p>人の絵カードを見せる。</p> <p>ねずみの絵カードを見せる。</p> 

時間の目安	活 動	話すこと、すること(必要に応じて、通訳する)	補足・注意点
0:10	④読み聞かせ	これは“だんだらぼっち”です。 大きな大きな男です。足も、とても大きいです。 “だんだらぼっち”の足音はどんな音でしょうか？ これから読むので、よく聞いてくださいね。 あとでクイズがありますよ。	“だんだらぼっち”の絵を指しながら話す。  紙芝居『だんだらぼっち』を読む。 ◎読み方のポイントは ⇒p.5
0:30	⑤クイズ (ふりかえり、 内容確認)	みなさん、どうでしたか？ おもしろかったですか？ こわかったですか？  じゃあ、クイズです。 Q1 “だんだらぼっち”の足音は どんな音ですか？ Q2 “だんだらぼっち”は どのくらい大きいと思いますか？ Q3 “だんだらぼっち”は どうしてわらじを見て逃げましたか？	感想や気づいたことを聞く (難しければ省略)。  クイズの内容は 変えても良い。  子どもたちは 母語やジェスチャーで 答えても良い。
0:35	⑥折り紙 (帽子制作)	今からみんなで“だんだらぼっち”になりましょう。 帽子を作って、顔を描きますよ。 ※以下、作り方を説明する。実際に折る手順を見せる。   A photograph showing two children sitting on the floor, engaged in a craft activity. They are using white paper to make hats. One child is already drawing a face on a hat template, while the other is working on another. There are various colored markers and a box of markers nearby.	見本をかぶって見せる。  模造紙、ペン、テープを 配布する。
0:55	⑦歌	最後に、“だんだらぼっち”になって、歌いましょう。 ♪『しあわせならてをたたこう』 🕒 90秒×2回～	子どもたちの使用言語に 合わせて複数言語で歌う。  “だんだらぼっち”になった つもりで、手や足を大きく 鳴らすことを意識する。
0:59	⑧終わりの あいさつ	楽しかったですか。 今日はこれで終わります。 また会いましょう。	子どもたちの保護者や 学校の先生などがいれば、 アンケートを配布する。

## コラム

「多言語おはなし会で、同じ絵本や紙芝居を日本語と外国語の2言語で読むときに、おはなし全部を1つの言語で読んでから別の言語で読むほうが良いですか。それとも1ページずつ交互に読むほうが良いですか。」という質問をいただくことがあります。

どちらの読み方にもメリットとデメリットがあります。以下はハンドブックの制作委員が活動を通じた経験から得た1つの考えです。

作品全体を1つの言語で1人の読み手が最後まで読んでから、もう1つの言語で他の読み手が読むことには大きなメリットがあります。作品全体を通して読むことは思考の流れを妨げず、子どもが頭の中で言語の切り替えを頻繁に行う必要もありません。

ただ、この読み方を行うためには、対象の子どもが両方の言語を良く理解できる必要があると感じます。そうではない場合は、わからない言葉を聞き続けることで集中力が切れてしまい、最後まで聞くことが難しい子どもたちが出てしまいます。

そこで本ハンドブックでは、弱い言語(得意ではない言語)から強い言語(得意な言語)の順番で、1場面(紙芝居なら1枚、絵本であれば見開き2ページ)ずつ交互に読む方法を紹介しています。これにより、子どもたちは、音の響きやその違いに着目しながら、多言語おはなし会を楽しむことができます。



例2

# はらぺこあおむし (絵本)

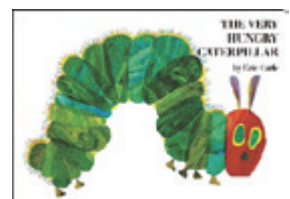


## この活動案の特徴

- 主に6歳以上から小学校中学年くらいまでを対象に想定した内容です。
- 多様な背景を持つ親子が集まり、多様な言語に触れながらおはなしを楽しむことができるような仕掛けがあります。
- ゲームなどで、様々な言語の果物の名前に触れることができます。
- 多くの言語に翻訳されているので、活動の準備が容易です(公共図書館等での蔵書も豊富です)。

## A 準備

(1) 参加者	
(2) 使用言語	
(3) 場所	
(4) 日時	
(5) スタッフ	
(6) 使うもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本『はらぺこあおむし』日本語版(作：エリック・カール、出版社：偕成社 ※ビッグブックもあり)と各国語版(子どもの母語に合わせて) ◎多言語読み聞かせ活動に使える絵本や教材のリストは ⇒p.15</li> <li>●絵本『くだものいろいろかくれんぼ』(作：いしかわ こうじ、出版社：ポプラ社)</li> <li>●歌『ミックスジュース』の動画や音源 ※『ミックスジュース』(作詞者不詳)は、アメリカ民謡『テン・リトル・インディアンズ』の替え歌手遊びです。「手遊び歌 ミックスジュース」と検索すると色々な例が出てきます。</li> <li>●果物の絵カード ①りんご ②いちご ③すいか ④オレンジ ⑤チェリー ⑥ぶどう</li> <li>●必要に応じて保護者等へのアンケート</li> </ul>
(7) その他注意することなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各言語の『はらぺこあおむし』の絵本を、子どもが手に取りやすい高さの場所に飾っておく。</li> </ul>



## B 活動の流れ

時間の目安	活 動	話すこと、すること(必要に応じて、通訳する)	補足・注意点
開始前	会場の準備	クイズで使用する食べ物の絵カードを部屋の各所に、子どもたちが見つけやすい高さに貼っておく。	
0:00	① 始まりのあいさつ	<p>みなさんこんにちは！ わたしは(名前)です。</p> <p>みなさん果物は好きですか。          どんな果物が好きですか。          今日は果物がたくさん出てくる絵本を読んだり、歌を歌ったりします。          クイズもありますよ。</p> <p>日本語は(名前)さんが読みます。          ○○語は(名前)さんが読みます。</p>	果物の絵カードを見せながら子どもたちが好きな果物を聞き出す。
0:03	② 歌・手あそび	果物の歌を歌いましょう。	手あそび歌『ミックスジュース』を果物の絵カードを見せながら行う。
0:08	③ 読み聞かせ 1	<p>次は果物がたくさんでてくる絵本です。</p> <p>おはなしは面白かったですか。          どこがおもしろかったですか。          気がついたことはありますか。</p>	『はらぺこあおむし』を日本語のみで読み聞かせる。終わったら、感想や気づいたことを聞く(難しければ省略)。
0:20	④ クイズ	<p>果物の名前を日本語と○○語で言ってみましょう。これは“りんご”です。</p> <p>○○語では?          ○○語スタッフ：“○○”          日本語で“りんご”。          子どもたち：「りんご」</p> <p>○○語では?          ○○語スタッフ：“○○”          子どもたち：「○○」</p> <p>○○語では?          (他の言語も以下同様に)</p>	<p>日本語担当スタッフと外国語担当スタッフが交互に言って、子どもたちに言わせる。</p> <p>他の言語でも同じように、後でクイズに出てくる果物の名前を2つの言語で確認する。</p>



時間の目安	活 動	話すこと、すること(必要に応じて、通訳する)	補足・注意点
0:28	⑤ゲーム	<p>見てください。このお部屋に果物のカードがあります。今から、〇〇語で果物の名前を言うので、その果物のところに集まってください。</p> <p>〇〇語スタッフA:〇〇</p> <p>では次は〇〇語です。</p> <p>〇〇語スタッフB:〇〇</p> <p>(他の言語も以下同様に)</p>	外国語スタッフは、果物の名前を言って、正解の場合は〇のジェスチャーを見せる。
0:35	⑥読み聞かせ 2	次は、家族の人の国の言葉で絵本を楽しみましょう。	『はらぺこあおむし』の外国語版を、子どもの母語別のグループに分かれて読み聞かせをする。
0:45	⑦終わりのあいさつ	<p>楽しかったですか。</p> <p>今日はこれで終わります。</p> <p>また、会いましょう。</p>	子どもたちの保護者や学校の先生などがいれば、アンケートを配布する。

## コラム

伸び縮みする折り紙のあおむしや、丸い色画用紙を繋げてあおむしを作る活動なども楽しいです。「あおむし おりがみ 動く」と検索すると色々な例が出てきます。

◎多言語読み聞かせ活動と著作権については ⇒p.14



 MIEFホームページでは、  
追加で活動案を掲載しています。  
 ぜひ合わせてご覧ください。



# 4 多言語読み聞かせ活動と著作権について

読み聞かせやおはなし会を行うときに留意しなければならないのが、著作権の問題です。紙芝居や絵本の著作者、その相続人等(著作権者)の権利は、著作権法により守られています。また、作品を勝手に改変することは著作者の著作者人格権を侵害する可能性があります。読み聞かせや翻訳利用にあたっては、以下のQ & Aを参考にしてください。

## Q1

営利目的ではない読み聞かせやおはなし会でも許諾が必要ですか？

**A1** 非営利での活動の場合、観客から料金を受け取ったり、実演者に報酬を支払ったりしなければ、著作権者に無許諾で利用できます。なお、おはなし会開催にあたって資料費や会場費等の経費に充当するために参加者に軽微な負担を求めることは認められています。次のサイトを参照してください。

「お話会・読み聞かせ団体等による著作物の利用について」  
(一般社団法人日本書籍出版協会)

<https://www.jbpa.or.jp/guideline/readto.html>

## Q2

読みたい絵本の翻訳版がありません。また、自分で翻訳を行う場合、翻訳の許諾手続きが大変です。どうしたらいいですか？

**A2** 他の言語に翻訳して使用する場合は、原則として著作権者の許諾が必要です。出版社を窓口として著作権者の許諾を得てください(なお、上記の「お話会・読み聞かせ団体等による著作物の利用について」には著作物利用許可申請書の様式が掲載されています)。

ただし、許諾を得るには時間等がかかる場合もあり、特に外国作品の場合は手続負担が大きい場合がありますので、すでに多言語で出版されている作品を利用することをお勧めします。

◎多言語読み聞かせ活動に使える絵本や教材のリストは ⇒p.15

## Q3

教育活動の一環として読み聞かせ活動を行う場合はどうでしょうか？

**A3** 学校や児童館などの教育施設の事業としておはなし会などが開催される場合は、翻訳して利用したり、絵本の紙芝居化などの翻案利用を行うことや、オンライン読み聞かせを行うことも認められています。下記のサイトを参照してください。

「改正著作権法第35条運用指針(令和3(2021)年度版)」  
(一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会SARTRAS)

[https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin\\_20201221.pdf](https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin_20201221.pdf)






OHC(書画カメラ)やプロジェクターで絵本を投影するのはOKです。



おはなし会や読み聞かせの動画配信は、原則許諾が必要です。(上記教育利用の場合を除く)

# 5 多言語読み聞かせ活動に使える 絵本や教材のリスト

## 1 MIEF発行の教材、動画

タイトル【発行年】／内容	言語	ウェブサイト
<b>紙芝居</b> 『—多言語で楽しむ三重のおはなし— だんだらぼっち』【2017年】 三重県の民話「だんだらぼっち」を平易な日本語で表現した紙芝居。全編かな表記、カタカナにはふりがな付き。	日本語および スペイン語・ タガログ語・ 中国語・ ポルトガル語	
<b>紙芝居</b> 『—多言語で楽しむおはなし— 十二支のおはなし』【2022年】 古代中国からの民話「十二支のおはなし」を平易な日本語で表現した紙芝居。全編かな表記。	日本語および 英語・スペイン 語・中国語・ ベトナム語・ ポルトガル語	
<b>多言語で楽しむ読み聞かせ活動</b> <b>三重のおはなし「だんだらぼっち」</b> 【2021年】 だんだらぼっちのおはなしと、歌や折り紙、手遊びなどを動画で楽しめます。	日本語・ ポルトガル語	 YouTube

## 2 小さなブラジル図書館

MIEFでは、『小さなブラジル図書館』として、ポルトガル語を中心とした外国語の本を所蔵しています。スペイン語やタイ語、中国語、フィリピン語、ベトナム語の絵本などもあります。貸出も可能ですので、ぜひご利用ください。利用案内や所蔵図書の情報には、右記二次元コードよりご覧ください。

<http://www.mief.or.jp/information/info05.html>



## 3 浪速図書館（大阪市立図書館）

「多言語で楽しむ絵本のリスト」を紹介しています。

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp/index.php?key=jo5nj2ttu-510>



## 4 多言語絵本の会 RAINBOW

日本や外国の昔話を、読む人に合わせて外国語の字幕とナレーション付きで楽しめるサイトがあります。また、世界の子どもたちの歌の紹介も載っています。

<https://www.rainbow-ehon.com/>



## 5 亜東書店

中国語、韓国語などの絵本を多数取り扱っています。

<https://www.ato-shoten.co.jp/>



## 6 アップステージ株式会社

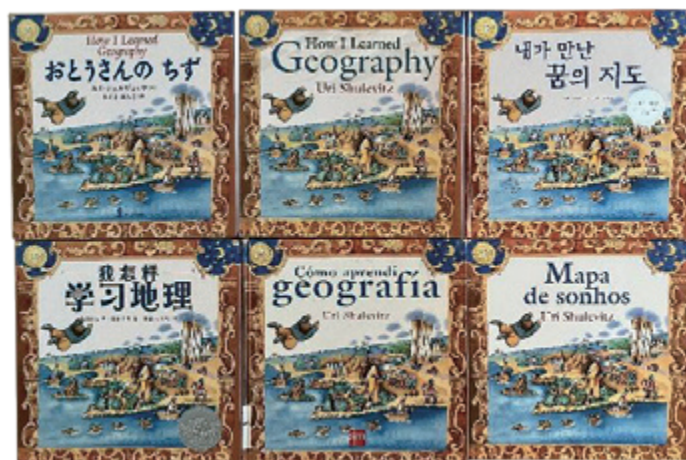
愛知県にあり、ポルトガル語の絵本を取り扱っています。ウェブサイトのLiteratura infantilのカテゴリーを選び、絵本を探することができます。注文は電話で日本語にて可能です。

<https://livrariaupstage.com/index.php?route=common/home>



## 7 多言語で入手しやすい絵本の例

タイトル／作者	出版社	英語	韓国語	スペイン語	中国簡体字	中国繁体字	ベトナム語	ポルトガル語
1 おとうさんのちず Uri Shulevitz (ユリ・シュルヴィッツ)	あすなろ書房	○	○	○	○			○
2 かいじゅうたちのいるところ Maurice Sendak (モーリス・センダック)	富山房	○	○	○	○	○		○
3 ぞうのエルマー David McKee (デビッド・マッキー)	BL出版	○	○	○				○
4 はらぺこあおむし Eric Carle (エリック・カール)	偕成社	○	○	○	○	○	○	○
5 ゆきのひ Ezra Jack Keats (エズラ・ジャック・キーツ)	偕成社	○		○	○			○
6 くれよんのくろくん なかや みわ	童心社	○	○		○	○	○	
7 きんぎょがにげた 五味 太郎	福音館書店	○	○		○	○		



『おとうさんのちず』

日本語、英語、韓国語、スペイン語、中国語（簡体字）、ポルトガル語

# アンケート

本日はご参加ありがとうございました。今後の活動に役立てたい  
と思いますので、以下のアンケートにご協力をお願いします。

1. 本日の「多言語おはなし会」の満足度を教えてください(数字に○をつけてください)。

5	4	3	2	1
とても満足		ふつう		不満

2. 特に良かった活動を教えてください。

3. 改善したほうが良いと思ったところがあれば、教えてください。

4. 今後もこのような会の実施を希望しますか(○をつけてください)。

はい	どちらとも いえない	いいえ
----	---------------	-----

「はい」と答えた方にお聞きします。今後の活動で取り上げて欲しい絵本やおはなし、  
活動などがあれば、教えてください。

5. その他に感じたこと、ご意見があれば自由にお書きください。



MIEFホームページでは、  
上記アンケート例の多言語版を  
掲載しています。

## 表紙に掲載をした絵本と紙芝居

- 『くれよんのくろくん』 なかや みわ（童心社）
- 『十二支のおはなし』（公益財団法人三重県国際交流財団）
- 『だんだらぼっち』（公益財団法人三重県国際交流財団）
- 『はらぺこあおむし』 Eric Carle（偕成社）
- 『Momotaro』 Hideki Katsumoto（Leitura & Arte）

## はじめての多言語読み聞かせハンドブック制作委員（敬称略・五十音順）

猪 狩 英 美	愛知淑徳大学 初年次教育部門 助教 絵本専門士
小 野 則 子	一般社団法人ランジャ・リマ 理事 絵本専門士
佐 藤 真 紀	東北学院大学 国際学部国際教養学科 准教授
吉 田 大 輔	著作権情報センター附属著作権研究所 副所長

事務局 ● 公益財団法人三重県国際交流財団

---

---

**はじめての多言語読み聞かせハンドブック**  
～外国につながる子どもたちと絵本を楽しみましょう～

2024年(令和6年)3月 発行

発行・編集 公益財団法人 三重県国際交流財団

〒514-0009 津市羽所町700番地  
アスト津3階 みえ県民交流センター内  
TEL 059-223-5006 FAX 059-223-5007  
E-mail [mief@mief.or.jp](mailto:mief@mief.or.jp)

<http://www.mief.or.jp/>

印刷・製本 合資会社 黒川印刷

---

---



